

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃうりんこ		団体ウェブサイトURL
	株式会社 うりんこ		www.urinko.jp
代表者職・氏名	代表取締役 児玉俊介		
制作団体所在地	〒 465-0018	最寄り駅(バス停)	宮根
	愛知県名古屋市長久区八前一丁目112番地		
電話番号	052-772-1882		
ふりがな 公演団体名	げきだんうりんこ		団体ウェブサイトURL
	劇団うりんこ		www.urinko.jp
代表者職・氏名	代表 児玉俊介		
公演団体所在地	〒 465-0018	最寄り駅(バス停)	宮根
	愛知県名古屋市長久区八前一丁目112番地		
制作団体 設立年月	1973年5月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 児玉俊介 運営委員長 佐々木政司 事務局長 西尾ひろみ		団員構成員32名(演技部20名、制作部11名、 育休1名) 加入条件 一年間の付属演劇研究所卒業と入 団試験での合格
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	西尾栄儀 西尾ひろみ
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	中村敬子

<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和48年 劇団うりんこ創立。昭和51年 株式会社 劇団うりんこ設立。 昭和54年 劇団うりんこ付属演劇研究所創立。 昭和55年 名古屋市芸術奨励賞 団体賞受賞。平成 4年 愛知県芸術文化選賞受賞。 平成 7年 (社)日本劇団協議会入会。 平成13～15年 文化庁芸術団体重点支援事業。 平成18年 児童福祉文化賞「だってだっておばあさん」 平成23年 名古屋市文化振興事業団『第27回 芸術創造賞』受賞 平成24年 児童福祉文化賞「ぼくってヒーロー？」 平成25年 児童福祉文化賞「ねむるまち」 平成29年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「ともだちやーあいつもともだちー」 平成30年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「夜明けの落語」 令和2年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「きみがしらないひみつの3人」 令和3年2月 法人名を、株式会社うりんこ に変更</p>					
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>平成31年度(令和元年度):合計10作品336回(「罪と罰」5回 「ダイアル ア ゴースト」17回 「夜明けの落語」66回 「ともだちやーあいつもともだちー」46回 「なんちゃってヒーロー」32回「学校ウサギをつかまえる」81回 「きみがしらない ひみつの三人」31回 「海彦と山彦」8回 「はなのき村」49回 「ドン・キホーテ」1回) 令和2年度:合計12作品327回(「小学校宇宙ステーション」56回 「こだぬきコロケ」12回 「なんちゃってヒーロー」45回「わたしとわたしぼくとぼく」28回 「ともだちやーあいつもともだちー」23回 「きみがしらないひみつの三人」34回 「クローゼットQ」8回 「ダイアルアゴースト」10回 「学校ウサギをつかまえる」50回 「キッドナップ・ツアー」15回 「はなのき村」25回 「海彦と山彦」21回) 令和3年度:合計14作品534回(「小学校は宇宙ステーション」103回 「ドン・キホーテ」2回 「ともだちやーあいつもともだちー」76回 「きみがしらないひみつの三人」68回 「なんちゃってヒーロー」106回 「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回 「ダイアル ア ゴースト」10回 「罪と罰」2回 「クローゼットQ」10回 「学校ウサギをつかまえる」85回 「はなのき村」4回 「キッドナップ ツアー」9回 「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」17回 「海彦と山彦」6回)</p>					
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>愛知県立港特別支援学校2008年7月11日 愛知県立安城特別支援学校2009年2月18日 栃木県立那須特別支援学校2016年11月14日(本事業) 愛知県立豊橋特別支援学校2018年11月21日(本事業) 愛知県豊田市立特別支援学校2019年7月5日 大阪府立平野支援学校2021年9月7日(本事業)</p>					
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/ouXp9iXAWZo</p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団うりんこ】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	小学校は宇宙ステーション		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目:「小学校は宇宙ステーション」 原作:山田加代子「小学校は宇宙ステーション」(ポプラ社出版) 脚本・演出:佃典彦 美術:青木拓也 照明:四方あさお 衣裳:木場絵里香 音楽:内田アダチ 音響:椎名KANS 公演時間 60 分		
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名 原作
	該当事項がある場合	権利者名 山田加代子「小学校は宇宙ステーション」(ポプラ社)	許諾確認状況 使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>【あらすじ】 小学校4年生のイクミちゃんは、この頃学校が楽しくありません。アイドルを目指しているキララさんやマリナさんが、イクミちゃんに強くあたるのです。そんなイクミちゃんの学校の給食室で事件は起こりました。給食室の地下に、60年前に不時着した宇宙船があって、ホープ星人たちを星に返すために、イクミちゃんのおばあちゃんや学校の校務員さんが宇宙船を修理中だということです。願い事が叶うというホープ星を目指して、おばあちゃんたちが地球脱出を計画していることを知ったイクミちゃんは「私も一緒に行きたい!」と言いました。地球にいてもいい事ないし、学校も楽しくないから宇宙に逃げ出したいと思ったのです。発射の時が迫りました。イクミちゃんを乗せた宇宙船は、本当に飛び立ってしまうのでしょうか? もう一度夢をみたい老人たちと、夢なんかないと思っている小学生が、「夢」からエネルギーをもらう物語です。</p> <p>【みどころ】 クラスの子との軋轢を感じ学校生活を楽しくしていないイクミちゃんは、一度は地球から逃げ出したいと願いました。でも発射の時になって「逃げるだけでいいのかな?」と葛藤します。そして、友人関係の課題を乗り越えようと立ち向かいます。夢ができたことで立ち向かうエネルギーがうまれたのです。イクミちゃんの心の変化に児童生徒が、深い共感と感動を得る演劇です。歌やダンスも適所に入り、初めて演劇を観る児童生徒も集中を持続させ、演劇を楽しむことが出来ます。</p>		
演目選択理由	<p>「私も同じ小学生で、夢がないのも同じだったので、自分の意見と比べて考えながら見ました」「私も何か夢をもって、それに向けて頑張れるようにしたいと思いました」これは、劇を観てくれた小学生の感想です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことがないと感じていたイクミちゃんが、かなえたい夢を見つけていく姿に、現代の児童生徒の多くが共感する演目です。 ・給食室の地下に宇宙船が埋まっているという設定は、日常のすぐそばにある非日常であり、児童生徒の興味や発想力を喚起し、心躍る観劇体験となる演目です。 ・小学生と祖父母世代が登場する物語で、世代を超えて「夢をもつこと」について語る場面は異なる価値観を持ちながら交流し、共感していくさまが描かれており、児童生徒のコミュニケーション能力の育成にも寄与する演目です。 ・移動する大きな冷蔵庫や、物語に合わせた回転し変化する背景など見ごたえのある舞台美術で児童生徒の想像力を喚起し、芸術鑑賞力の向上につながる演目です。 		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【共演の形態】共演の児童生徒は、10人程度(4年生以上)を予定しています。劇の冒頭部に児童生徒と一緒に創作する給食準備の場面で共演を行います。俳優と一緒に給食を受け取りに行く場面を演じます。今日のメニューや給食への期待を会話したり、食缶などを重たい様子で運ぶ演技をします。台詞は、児童生徒のアイデアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。</p> <p>【体験の形態】上演後、舞台の見学や舞台裏の見学を計画しています。劇中に変化する背景の仕掛けを間近で見学してもらいます。希望がある場合、音響のオペレーションを体験することも可能です。舞台装置の仕掛けを間近に見たり効果音などを出す体験は、舞台芸術への興味関心を強く喚起し未来の芸術家育成・観客育成につながるものと考えます。</p>		
出演者	高田博臣(ひろ～み)、宮田智康、宮川希実、山内南(長谷川南)、西島愛莉		(カッコ内)は芸名
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 1 名 合計: 6 名	運搬	積載量: 3 t 車長: 6.38 m 台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～11時	13時30分～14時30分	0分	15時～16時30分	16時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	10日	0日	0日	0日	
	11月	12月	1月	計	34日	
	8日	11日				
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名
		鑑賞人数目安	400名

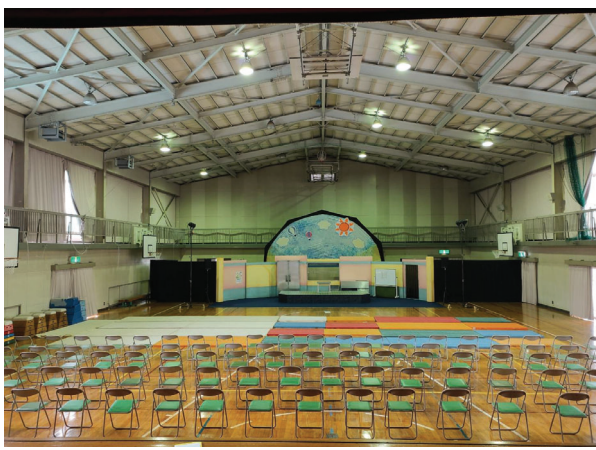
公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



図①
体育館のフロア（ステージの逆側）に舞台を設置した状態。
体育館の形状や鑑賞人数によって、設置場所を変更する場合があります。

舞台設置に必要な面積
幅 約14m×奥行 約11m



図②
体育館のフロア（ステージの逆側）に舞台を設置し、客席を設置した状態。
鑑賞人数に合わせて客席を設定します。
・学校のパイプ椅子等をお借りします。



図③④
上演の様子
・アイドルを目指しているマリナさんとキララさんがイクミちゃんに強く当たるので、イクミちゃんは毎日が楽しくありません。
・給食室の地下に埋まっている宇宙船。おじいちゃんおばあちゃんが集まって出発の時を迎えます。イクミちゃんは発射のボタンを押してしまうのでしょうか？

【公演団体名 劇団うりんこ】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40人(1クラス程度)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準:90分 【実施形態】 4年生以上、1クラス単位(40名程度)以内で行います。 小中学校でのワークショップ指導経験者が2名で指導します。 共演場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、子どもたちのコミュニケーション力や表現力向上をはかる活動を実施します。 【ワークショップ内容】 ①ガイダンス ワークショップの目的を児童生徒に伝えます。 ②導入の活動 アイスブレイクのための活動を行います。ワークショップへの期待を高め、緊張をほぐすために行います。児童生徒になじみの深い「じゃんけん」を使った活動です。 ③展開の活動① コミュニケーションを楽しむ活動を行います。 ペアで身体表現を楽しむ活動です。(例えば「ナイフとフォーク」) 想像を楽しむ活動を行います(例えば「見えない糸の操り人形」) 小集団で合意形成し、創作活動を行います。(例えば「フリーズフレーム」) 休憩(10分) ④展開の活動② 共演場面の内容を伝えます。児童生徒のアイデアを活かし、場面内容にあったセリフを創作し、実施校独自の共演場面をつくります。 給食当番役が給食を取りに行くという、児童生徒が日常の中で体験している内容での共演場面です。日頃の会話や行動を想像して演技します。食缶などを重たい様子で運びます。 共演の児童生徒を決めます。 共演児童生徒が参加共演場面を演じます。他の児童生徒は見学します。 ⑤まとめ ワークショップのふりかえりを行います。</p>		
ワークショップのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞をより豊かな体験とするために、想像力を育むことを目的とした身体表現活動を行います。 ・ペアでの表現活動や小グループでの創作活動を行うことで、言語によるコミュニケーション(受信と発信)や他者との合意形成の体験を提供します。 ・児童生徒のアイデアを活かした共演場面の創作により、自らのアイデアが共演場面の創作に活かされる体験を通し、発想力を育むと共に自己肯定感や自信を育みます。 <p>子どもたちが演劇を身近に感じ、興味関心をもって公演当日を迎えられるよう留意してワークショップを行います。子どもたちが主体的に楽しく活動できるよう親しみやすく分かりやすい進行に努めます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは公演会場と同じ場所で行います。 ・ワークショップに参加する児童生徒は、動きやすい服装で参加してください。 ・ワークショップ実施前に、ワークショップの狙いや内容について学校側と共有し、ワークショップの円滑な実施のために担当の先生およびワークショップ参加児童生徒の担任の先生との打合せを行います。 		